

平成 29 年度地域で決める学校予算事業第 3 回推進懇話会 意見の概要

開催日時	平成 30 年 3 月 16 日（木）15 時 00 分から 16 時 30 分まで
開催場所	はぐくみセンター 8 階 中講座室 8-2
意見等を求める内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良市地域教育推進事業 第 7 回「交流の集い」の報告</li> <li>・コーディネーター研修（平成 29 年度の報告）</li> <li>・コーディネーター研修（平成 30 年度の予定）</li> <li>・プレゼンテーションと意見交換について</li> <li>・総合コーディネーター連絡会の報告</li> </ul>
出席者	参加者 3 人 事務局 8 人
開催形態	公開（傍聴人 0 名）
担当課	学校教育課地域教育課 地域学校連携係

意見等の内容の取り纏め

≪本会議の目的≫

地域で決める学校予算事業の継続推進のため、事業の方針、内容、成果、課題などについて、助言、意見を求める。

≪事務局による事業説明の概要≫

- ・第 7 回「交流の集い」の報告
- ・コーディネーター研修（平成 29 年度の報告）
- ・コーディネーター研修（平成 30 年度の予定）
- ・プレゼンテーションと意見交換について
- ・総合コーディネーター連絡会の報告

事務局の説明後、意見を徴収。

■意見の概要

≪コーディネーター研修について≫

▶来年度、研修が 6 回の予定だということだが、研修の内容が充実する反面、日常の活動に加えての研修となると、コーディネーターの負担感という、マイナスの面があるかと思うがそのあたりはどうか。

→地域教育課の回答：350 人を超えるコーディネーターがいる中で、これまで一度もコーディネーター研修に参加していない方がおられる。地域学校連携推進事業 10 年目に入った今、原点に戻って問い直し、“どういうコーディネーターが必要なのか” “コーディネーターのスキル” “一度も研修に参加していない人をコーディネーターと呼べるのか？”などを考えていくべきと考える。さらに、コーディネーターの委嘱に値する人を絞っていかないといけない時期に来ている。コーディネーターが参加しやすいよう、研修の回数を増やすことで間口を広げたい。

## 《コーディネーターについて》

- ▶コーディネーターは、総合コーディネーター連絡会（※平成29年度：全6回）や、交流の集い作業部会（※平成29年度：全5回）とかなりの時間を費やして下さっている。コーディネーター同志が自ら学びを作っているようになるほど成長していると思う。
- ▶コーディネーターは、仕事という感覚をもってはいけないのだろうか、疑問に感じる。責任あることをされているので、勉強会、研修会にはきちんと参加するべきだと思う。
- ▶コーディネーターは謝金は出ているが、ボランティアな活動である。
- ▶謝金が出ているのであれば、完全なボランティアとは違うと感じる。“ボランティア”“コーディネーター”と呼び方が違うため、コーディネーターについては、それぞれ特別な感覚を各自もっていると思う。
- ▶謝金をもらっている、もらっていないという話だけではなく、もう少し制度的にもしっかりと位置づけがあるといい。研修が前提になるというのもあり得る。
- ▶問われるのは、奈良市はそのコーディネーターが400人近くいることと、そのスキルには濃淡があるということ。
- ▶コーディネーター不足なのではなく、逆に多いようにも思う。コアな人たちを育てることが大切である。コーディネーターは、しっかりと研修に参加し、しっかりと上に立ち、しっかりとまとめられる方々で構成し、その次の人材を育てることが必要である。

## 《学校側の理解の進み方について》

- ▶地域学校連携に関して、学校側の理解の進み方はどんな感じか？  
→地域教育課の回答：今の実態としては、学校のニーズにアプローチできていない部分がある。学校は余裕がないなかで、事業の幅を広げたり、違う手法を取り入れたりという発想がなかなかない部分がある。ただ、地域の方々、学校の研修に入ってくさったり、教師向けの広報チラシを作られたりと、あきらめず地道に寄り添って下さっている。教育課程を社会に開くことを教師側に迫られている今、周りに地域の方がいてくださることは大変重要で、これからの10年が大事である。
- ▶地域のコーディネーターが学校に向けて広報しだしたところもある。若い先生がターゲットだというコーディネーターもいる。

## 《プレゼンテーションについて》

- ▶実際のプレゼンがテーマに沿っていないものがあり、テーマ設定が機能していない。
- ▶テーマを設定したのは、課としての方向性を示すことが目的だったが、機能していないのであればテーマ設定することがいいのかどうかを考えないといけない。
- ▶プレゼンは全部聞くと、全体が見え、面白い。また、全部聞くからなるほどと思うところがある。多様で面白い取組を他校区の方々に何とか伝える方法はないのかと思う。
- ▶公開にしたが、実際の参加は少なく、地域の方も長時間は負担である。
- ▶いくつかのグループに分けるのはどうか。委員のコメントを他の地域の人が聞く、という方法もあるのかなと思う。
- ▶評価について、差がなくなってきたので、優劣をつけるよりかはお互いに学びあう流れに

なっている。ただし、プレゼンの意味は、予算をどんな風に活用するのか行政側が評価するということである。

- ▶グループに分けて、他校区のプレゼンや意見を聞くことで、評価に不公平が出てくるというようにはならないと思う。グループで聴きあう、学び合うというものを作っていければ良い。
- ▶例えば、5校区グループ×30分、午前2グループ、午後2グループで分けるのはどうか。
- ▶あるいは、4グループ並行で同時にやって、そのあと全体でシェアする時間を設けたり、岡田先生が講義をされるなどの方法もあるのでは。熟議でも最後はシェアするということが大事である。もしくは、互いに評価する相互評価や、競争型の提案を募集するのもひとつでは。